

新堀川における生物調査の結果 (夏季)

1. 調査概要

本調査は、工事着手前の平成13年度に実施した水辺環境調査（以下、「前回調査」という。）と同じ項目である魚類、底生動物及び鳥類を対象として、新堀川における現況の生息状況を把握することを目的として実施した。本報告は、夏季調査結果の概要を整理したものである。

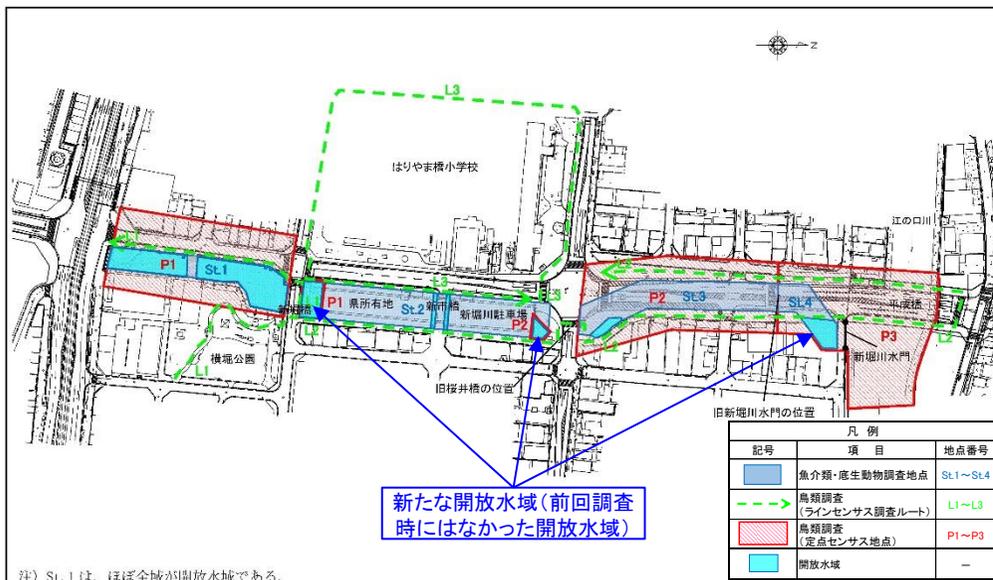
2. 調査実施日

平成30年 7月31日(火)・8月1日(木) : 鳥類調査
 8月28日(火)～30日(木) : 魚類・底生動物調査
 8月28日(火)～30日(木) : 同上

3. 調査範囲

各調査の調査範囲（調査地点）を下図に示した。

魚類及び底生動物の調査範囲は、St.1～3については前回調査と同様の範囲とし、旧新堀川水門の位置から江ノ口川合流点までを新たにSt.4として設定した。また、鳥類の調査範囲はほぼ同じ区域とした（新たな開放水域も範囲に加えた）。



調査範囲

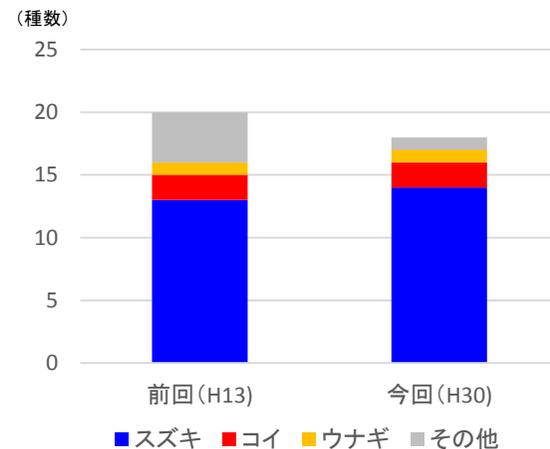


調査地点の状況

前回と今回の夏季調査で確認された魚類

No.	目名	科名	種名	生活型	重要種				外来種	夏季調査		
					環境省 RL	環境省 海RL	高知RL	条例		前回 (H13)	今回 (H30)	
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	回遊	EN		NT			○	○	
2	ニシン	ニシン	コノシロ	汽海						○		
3	コイ	コイ	コイ	淡水						○	○	
4			フナ(在来個体群)	淡水			NT			○		
5			ウグイ	回遊								○
6	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	淡水					特定	○		
7	トゲウオ	ヨウジウオ	カフヨウジ	汽海						○		
8	スズキ	アカメ	アカメ	汽海	EN		注目			○	○	
9		スズキ	スズキ	汽海							○	
10		シマイサキ	コトヒキ	汽海						○		
11			シマイサキ	汽海						○	○	
12		アジ	ギンガメアジ	汽海						○		
13		ヒイラギ	ヒイラギ	汽海							○	
14		クロサギ	クロサギ	汽海						○	○	
15		タイ	クロダイ	汽海								○
16			キチヌ	汽海								○
17		クロホシマンジュウダイ	クロホシマンジュウダイ	汽海								○
18	ボラ	ボラ	汽海							○		
19		セスジボラ	汽海							○		
20	ハゼ	カワアナゴ	回遊							○		
21		トビハゼ	汽海	NT		VU	○			○	○	
22		ウロハゼ	汽海							○	○	
23		マハゼ	汽海							○	○	
24		ヒナハゼ	汽海							○		
25		アベハゼ	汽海							○	○	
26		ヨシノボリ属	回遊								○	
27	ヌマチチブ	回遊				NT					○	
28	フグ	ギマ	ギマ	汽海						○	○	
種数				-	3	0	5	1	1	20	18	

- H30調査で新たに確認された生物
- H30調査で確認されているレッドデータブックに関連する生物(重要種)
- H30調査で確認されなかったH13の生物



- 夏季調査における魚類の確認種数は前回は20種、今回が18種であり、今回が2種少なかった。
- 今回調査で確認されなかった種数は10種、新たに確認された種数は7種であった。
- 種構成には差異が見られるものの、スズキ目、コイ目、ウナギ目の出現種数は同程度であった。
- 重要種は前回・今回ともに3種が確認され、そのうちアカメとトビハゼは両方で確認された(前回確認されたギンブナは今回未確認で、ヌマチチブが新たな確認種であった)。
- 今回は夏季調査のみの比較であり、今後は秋季・春季調査を含めた比較検討が必要であろう。

注)「生活型」、「重要種」、「外来種」の区分は前表を参照。

新堀川における生物調査 (その3)

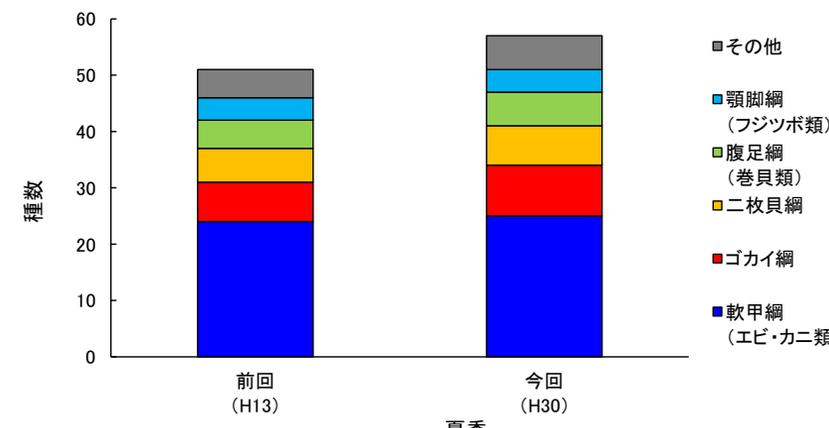
底生動物調査結果

参考資料 (3 / 4)

前回と今回の夏季調査で確認された底生動物

No.	綱	目	科	種名		重要種				外来種	夏季調査		
				和名	学名	環境省RL	環境省海RL	高知県RL	条例		前回 (H13)	今回 (H30)	
1	ヒドロ虫	-	-	ヒドロ虫綱の一種	Hydrozoa sp.						○	○	
2	有棒状体	-	-	有棒状体綱の一種	Turbellaria sp.						○	○	
3	有針	-	-	有針綱の一種	Enopla sp.						○	○	
4	腹足	アマオブネガイ	アマオブネガイ	カノガイ	<i>Clithon faba</i>						○	○	
5			ユキスズメガイ	ミヤコドリ	<i>Phenacolepas pulchella</i>		NT				○	○	
6			トゲカワニナ	タネノコカワニナ	<i>Stenomelania rufescens</i>		VU		注目		○	○	
7			カワザンショウガイ	ダテカワザンショウガイ	<i>Assiminea bella</i>						○	○	
8				カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>						○	○	
9				Assiminea属の一種	<i>Assiminea sp.</i>						○	○	
10				ミスゴマツボ	<i>Stenothyra edogawensis</i>		NT		NT		○	○	
11	二枚貝	イガイ	イガイ	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>					総合対策	○	○	
12		カキ	イタボガキ	マガキ	<i>Grassostrea gigas</i>						○	○	
13				ニュージーランドガキ	<i>Saccostrea glomerata</i>						○	○	
14				マルスダレガイ	ウロコガイ上科の一種	<i>Galeommatacea sp.</i>					○	○	
15				カワホトギス	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>					総合対策	○	○
16				シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>			NT		○	○	
17				マルスダレガイ	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>					○	○	
18	ゴカイ	サンバゴカイ	ニカイチロリ	ヤマトキョウステロリ	<i>Goniada japonica</i>						○	○	
19			ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>						○	○	
20				ゴカイ	<i>Neanthes japonica</i>						○	○	
21				スビオ	スビオ	<i>Prionospio japonicus</i>					○	○	
22					<i>Pseudopolydora gibbsi</i>						○	○	
23					<i>Pseudopolydora sp.</i>						○	○	
24				イトゴカイ	イトゴカイ	<i>Capitella sp.</i>					○	○	
25					<i>Heteromastus filiformis</i>						○	○	
26					<i>Notomastus sp.</i>						○	○	
27				フサゴカイ	カザリゴカイ	<i>Amage auricula</i>					○	○	
28					<i>Hobsonia florida</i>						○	○	
29					<i>Potamilla elegans</i>						○	○	
30					<i>Potamilla sp.</i>						○	○	
31	ミズ	イトミズ	イトミズ	イトミズ科の一種	<i>Naididae sp.</i>						○	○	
32					<i>Tubificidae sp.</i>						○	○	
33					<i>Amphibalanus eburneus</i>					総合対策	○	○	
34					<i>Amphibalanus imgrovisus</i>					総合対策	○	○	
35					<i>Fistulobalanus albicostatus</i>						○	○	
36					<i>Fistulobalanus kondakovi</i>						○	○	
37	軟甲	クーマ	クーマ	クーマ科の一種	<i>Diatylidae sp.</i>						○	○	
38		タナイス	タナイス	キスイタナイス	<i>Sinelobus stanfordi</i>						○	○	
39		ヨコエビ	ヨコエビ	Aora属の一種	<i>Aora sp.</i>						○	○	
40					<i>Aoroides curvipes</i>						○	○	
41					<i>Grandiderella fasciata</i>						○	○	
42					<i>Grandiderella japonica</i>						○	○	
43					<i>Grandiderella sp.</i>						○	○	
44					<i>Corophium acherusicum</i>						○	○	
45					<i>Corophium acutum</i>						○	○	
46					<i>Abiodonella deniculata</i>						○	○	
47					<i>Melita koreana</i>						○	○	
48					<i>Gyathura sp.</i>						○	○	
49					<i>Gnoringosphaeroma sp.</i>						○	○	
50					<i>Lilja exotica</i>						○	○	
51					<i>Metapanaeus ensis</i>						○	○	
52					<i>Metapanaeus moyebi</i>						○	○	
53					<i>Panaeus semisulcatus</i>						○	○	
54					<i>Macrobrachium nipponense</i>				NT		○	○	
55					<i>Palaemon macrodactylus</i>						○	○	
56					<i>Alpheus levisculus</i>						○	○	
57					<i>Alpheidae sp.</i>						○	○	
58					<i>Laomedea astacina</i>						○	○	
59					<i>Philyra pisum</i>				NT		○	○	
60					<i>Halicarcinus orientalis</i>						○	○	
61					<i>Neorhynchoplax okinawensis</i>						○	○	
62					<i>Scylla olivacea</i>						○	○	
63					<i>Scylla serrata</i>						○	○	
64					<i>Scylla sp.</i>						○	○	
65					<i>Deiratonotus cristatus</i>				VU		○	○	
66					<i>Ilyoplax pusilla</i>						○	○	
67					<i>Uca arcuata</i>				VU		○	○	
68					<i>Uca lactea</i>				VU		○	○	
69					<i>Parasesarma eacis</i>				NT		○	○	
70					<i>Perisesarma bidens</i>						○	○	
71					<i>Ericheir japonicus</i>						○	○	
72					<i>Helice tridens</i>						○	○	
73					<i>Hemigrapsus psnicillatus</i>						○	○	
74					<i>Varuna litterata</i>						○	○	
75					<i>Aquarius paludum paludum</i>						○	○	
76					<i>Dicretodendipes sp.</i>						○	○	

- H30調査で新たに確認された生物
- H30調査で確認されているレッドデータブックに関連する生物(重要種)
- H30調査で確認されなかったH13の生物



- 夏季調査における底生動物の確認種数は前回は51種、今回が57種であり、今回が6種多かった。
- 今回調査で確認されなかった種数は18種、新たに確認された種数は21種であった。
- 分類群別にみると、前回・今回ともに軟甲綱(エビ・カニ類)、ゴカイ綱、二枚貝綱を主体とした底生動物相となっており、両方で種構成の差異はほとんど見られなかった。
- 重要種は前回は6種、今回が8種確認された(ミヤコドリ、コブシガニの2種が新たな確認種)。
- 今回は夏季調査のみの比較であり、今後は秋季・春季調査を含めた比較検討が必要であろう。

注)「重要種」、「外来種」の区分は前表を参照。

前回と今回の夏季調査で確認された鳥類

No.	目	科	種名 和名	渡りの区分*1	生息環境区分*2	重要種			外来種	夏季調査	
						環境省 RL	高知県 RL	条例		前回 (H13)	今回 (H30)
1	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ	留鳥	水辺周辺					○	
2			ササゴイ	夏鳥	水辺周辺		VU			○	○
3			アマサギ	夏鳥	水辺周辺					○	
4			ダイサギ	留鳥	水辺周辺					○	
5			コサギ	留鳥	水辺周辺					●	
6			アオサギ	留鳥	水辺周辺						●
7	タカ目	タカ科	トビ	留鳥	その他				●	○	
8	ハト目	ハト科	ドバト	留鳥	市街地				●	●	
9			キジバト	留鳥	その他				●	○	
10	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	留鳥	その他				○		
11	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	夏鳥	市街地				●	○	
12		ツグミ科	イソヒヨドリ	留鳥	水辺周辺				●		
13		メジロ科	メジロ	留鳥	森林周辺				○		
14		アトリ科	カワラヒワ	留鳥	森林周辺				○		
15		ハタオリドリ科	スズメ	留鳥	市街地				●	●	
16		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	市街地				●	●	
17		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	その他				●	●	
18				ハシブトガラス	留鳥	その他					○
種数						0	1	0	1	16	10

*1 渡りの区分

留鳥：年間を通して地域に定着する種

夏鳥：春から夏にかけて南方の越冬地から繁殖のために渡来する種

冬鳥：秋から冬にかけて北方の繁殖地から越冬のために渡来する種

*2 生息環境区分

森林：主に森林内から林縁に生息する種

森林周辺：森林内から林縁、草地、農耕地周辺に生息する種

水辺：主に水辺やその周辺に生息する種

水辺周辺：水辺やその周辺、草地、農耕地周辺に生息する種

市街地：住宅地や公園、田畑等、人家周辺を利用する種

その他：多様な環境を利用する種

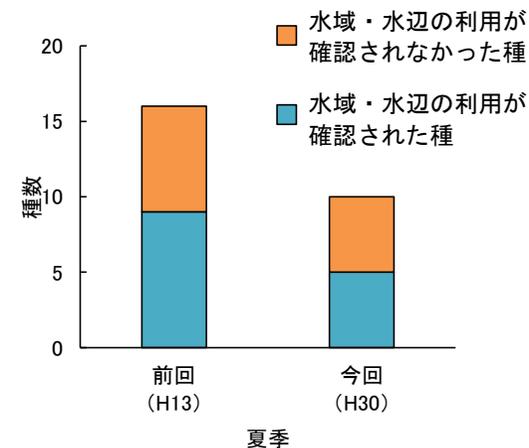
注) 出現欄の区分(●○)は下記のとおりである。

●：水域・水辺の利用が確認された種(採餌、索餌(餌探し)、水辺での休息等)

○：水域・水辺の利用が確認されなかった種(比較的高い高度で空中を通過した種を含む)

注)「生活型」、「重要種」、「外来種」の区分は前表を参照。

- H30調査で新たに確認された生物
- H30調査で確認されているレッドデータブックに関連する生物(重要種)
- H30調査で確認されなかったH13の生物



前回と今回との比較（水域・水辺利用の有無）

- 夏季調査における鳥類の確認種数は前回は16種、今回が10種であり、今回が6種少なかった。
- 今回調査で確認されなかった種数は8種、新たに確認された種数は2種であった。
- 水域・水辺を利用した種数は、前回の9種から今回は5種へと減少した。これは前回から水辺空間が減少(St.3・St.4の開放水域が減少)したことに起因することが示唆される。
- 重要種は前回・今回ともに1種(ササゴイ)が確認されたが、両者ともに空中を通過したものである。
- 今回は夏季調査のみの比較であり、今後は秋季・冬季調査を含めた比較検討が必要であろう。